

青い鳥たより



～厚いふれあい広がる人の和、
はばたけみんなの青い鳥～

第22号 2012年3月発行

障害者福祉センター 厚和寮
TEL : 0857-26-0860

昭和レトロのお話 寮長 幸本 一章

今年の冬はずいぶん寒かった印象ですが皆さんいかがお過ごしでしょうか。地球温暖化の影響と思いますが、近年積雪も少なくなつて暖冬に慣れてしまったから今年の寒さはよけい身になりました。

考えてみますと、私が子供のころはもともとと寒さが厳しかったような気がします。小学校からの帰り道、長靴の中に雪が入ってすっかり冷たくなつてしまつたり、強い風で傘の骨が折れてしまつたり、なによりつらつらの太くて長いことか…。

台所の屋根からさがるつららがすく大きかったのを覚えています。台所は板の間でかまどと流しと井戸がありました。かまどのそばには鉄の輪がいくつかあつて、これは大きな異なる羽釜を乗せる為に使つたか。流しはタイル張りになっていました、これはおそらく当時最新式でしょう。井戸はどれくらい深さがあつたかわかりませんが、中をのぞくと暗闇で吸い込まれそうな気がして怖かつたものです。ころころはなつて、手洗いのポンプで水をくみ上げていました。今は井戸も埋めてしまいましたが、庭先に井戸の石組みの後が残っています。

風呂は新でたいいました。我が家は、タイル張りになった循環式と呼ばれるものでしたが、母の里にゆくと大きなお釜(いわぬ)る五右衛門風呂の中に板が浮いていました。子供ですのでもこれにうまく乗れなくて、くひくひと返つたりしていました。我が家は今でも新を使います、当時と違つのは電気温水器からも給湯できるよつになつたことですね。

風呂をたくかまどのそばには火吹き竹というものがありまして、火をつけるときに息をふくんです。テレビは小学校の3、4年生くらいの時に家にきました。もちろん白黒で東芝の製品でした。



思い出せば懐かしい頭の中の風景ですが、思い出としてはきれいで、実際には不慣れた生活でしたね。確かに現代は便利になりました。こんな事をいつかにも年寄り臭いと思います。子供のころは大きいおばあさんのことをちよつとばかにしていましたが、確実に年を取つていく証拠でしよつね。

昨年十月に行われたきらきらアート展に出品した作品の中から山本芳枝さんの書「里山」が銅賞に



☆きらきらアート展☆受賞おめでとう

きらきらと輝きました。まあ、この作品は、見る人に与えることの山を連想させ、一本当に嬉しい。これからも頑張らざつとります。アートはたのしい。ほのぼのとしたぬくもりを感じさせてくれました。なお、この作品は十一月二十六日に鳥取市民会館で行われた第一回鳥取県障がい者文化芸術祭において、展示されると共に舞台で表彰されました。山本さんは大変喜ばれ、書いてよかつたと満足そうでした。

☆きらきらアート展☆

この文化芸術祭では、舞台芸術の発表として兵庫県のいくつかのサークルの発表がありました。本格的なミュージカル、ベル演奏や太鼓、演劇など、どれもかなりの練習量をつかがわせるもので、中にはプロとして活躍している演劇集団の参加もありました。こうしたアート活動は人々に感動を与え自分たちを生き生きとさせる源になつていきます。

厚和寮の中に文化芸術が今以上に育つてくれることを願っています。

支援主幹 加藤敏雄

東日本大震災への義援金ありがとうございました。

昨年3月11日、東日本大震災があり、厚和寮でも玄関に募金箱を設置しました。多くの皆様の御理解とご協力ありがとうございました。

募金合計 16,000円

平成24年3月15日に自治会長と、日本海新聞を通じて募金させて頂きました。

編集後記

雪かきに追われた寒い冬も終わろうとしています。また、震災関係の皆様へ節電をお願いした一年間でもありました。再び巡って来る春に気持ちも新たに臨んでいきたいと思つています。



西村